

授業科目名	芸術文化・観光プロジェクト実習 4	担当教員	大社 充 岡元 ひかる 近藤 のぞみ 石井 路子 小林 瑠音 田上 豊 野津 直樹 崔 光雄 小畠 克典 小島 寛大 河村 竜也 安藤 竜 深澤 南土実	
必修の区分	選択			
単位数	2 単位			
授業の方法	実習			
開講年次	3 年 第 2 クオーター			
講義内容	<p>芸術文化・観光プロジェクト実習 4 は、芸術文化と観光の双方の視点から芸術文化に磨きをかけ、それを観光に生かすことで地域活力の創出につなげる実践能力を養う実習である。本プロジェクトに求められる能力は、演劇祭などの舞台芸術を観光のコンテンツとして活用することだけではない。この能力には、観光の視点に立って新たな芸術作品や企画を生み出す創造力も含まれる。</p> <p>これまでの実習経験から得られた構想をもとに、芸術文化・観光プロジェクト実習 4 では自らの関心と強みを生かし、芸術文化と観光の双方の視点を生かした新たな企画を実現するために、学生主体の実習を行う。</p>			
到達目標	<p>① 芸術文化と観光の双方の視点を生かし、実現可能な企画を考案することができる。</p> <p>② フェスティバルを担う様々な職種の中から、自らのこれまでの学修、関心と強みをベースに将来のキャリアイメージを描くことができる。</p>			
授業計画	<p>事前学習として、実習先となる芸術文化・観光プロジェクトに関して概要を理解した上で、個別もしくはチームで作成した企画内容について、実習指導者へのプレゼンを行う。</p> <p>実習中は、実習指導者等による助言指導を受けながら、実施が決まった企画を実現に向けてブラッシュアップし、運営・実施に向けて綿密な計画を立てて。企画は芸術文化・観光プロジェクト 3 として運営・実施する。各企画が、芸術文化と観光との相互作用から新たな価値を生み、それを地域経営に活かせることを目標とする。</p> <p>中間時点および最終日には、芸術文化と観光の双方の視点から学生による報告会を実施し、演劇祭主催者等との意見交換を行う。</p> <p>実習後には完了報告書を作成し、実習で得た経験と知識を総括し、地域社会へ向けて芸術文化と観光の双方の視点から新たな企画提案ができるよう、実習指導者による助言・指導を行う。これにより、芸術文化と観光を結びつけたプロジェクトが、コミュニティ再生と経済活性化に寄与する新たな地域システムづくりを、具体的に提案できる力をつける。</p>			
事前・事後 学習	参加する学生は必ず事前説明会等には出席し、定められた様式で、実施計画書、日報、完了報告書を作成する。			

テキスト	特になし
参考文献	授業内で適宜紹介する。
成績評価の基準	実習の態度（40%）、日報（30%）、実習報告書・プレゼン（30%）
履修上の注意 履修要件	芸術文化・観光プロジェクト実習3を履修済みであるか、 芸術文化・観光プロジェクト実習3を同時に履修すること。
実践的教育	学外の臨地実務実習先の実習指導者から、実践的な指導を受けながら実習をすることから、実践的教育に該当する。
備考欄	定員超過の場合は、志望理由等をもとに選考を行う。